

## 原子力被災者生活支援チーム会議（第2回）議事録

日時：平成23年4月5日（火） 15：00～

場所：官邸2階小ホール

出席者：海江田経済産業大臣、福山官房副長官、平野内閣府副大臣、平岡総務副大臣、笹木文部科学副大臣、大塚厚生労働副大臣、筒井農林水産副大臣、三井国土交通副大臣、小川防衛副大臣、片桐警察庁次長、松下経済産業副大臣、近藤環境副大臣

### 【開会】

松下副大臣：3月31日に第1回開催してから、チームの作業が進んできた。課題を整理した上で、取組方針を決めていきたい。福島第一は予断を許さない状況。避難民の不安解消に取り組みたい。本日は環境省の近藤副大臣にも参加いただいた。

海江田大臣：福島第一は相変わらず厳しい状況。被災者の皆様には大変なご苦勞をお掛けしている。本会合は非常に重要な役割を担っている。立ち上がったばかりであり、それなりの成果はあるが、まだまだ十分でない。被災者に対し政府一丸となって総合的に支援していきたい。

（事務方より資料に基づいて説明。）

### 【家畜のスクリーニング】

筒井農水副大臣：農林水産関係では、避難先の農山漁村で雇用する取組、農業の放射線に関する被害について、民間の動きではあるが、東電に仮払い請求を進めている。

20～30kmに家畜がいる。牛1万頭くらい、豚1万3千頭くらい、鶏126万羽くらいが残っている。そのうち1万羽以上の養鶏農家が放棄して避難してしまった。

これについて30km圏外に移動可能なかどうか、25日時点から事務方から原子力安全委員会に確認を求めているが、回答がない。移動可能かどうか結論が出ないところらの対応も結論が出せない。結論を早急に出して欲しい。

一番よいのは出荷できればよいが、場合によっては殺処分しないとならない。口蹄疫などと違って殺処分に係る法的根拠はないので、災対法に基づく総理指示でやらざるを得ない。

地元の家畜改良センターが餌を用意して、各農家に取りに来て渡している状況だが、それをそのまま続けていくのか早急に決めないとならない。

20km以内については把握できていない。

笹木文科副大臣：モニタリングしているか。

筒井農水副大臣：モニタリングはしていない。出荷するためには全頭検査要るのでないか。

平野内閣副大臣：人の出入りはスクリーニングしている。家畜もスクリーニングが要る。

筒井農水副大臣：移動させるとすればそうなる。

平野内閣副大臣：スクリーニングした家畜がそもそも市場価値があるのか分からない。スクリーニングさせなければならないか、早急に結論だしてもらわないと。

筒井農水副大臣：それは早急に結論を。

平野内閣副大臣：スクリーニングしなければならない家畜があったとしても、そもそも除染しようとしても除染できる訳ない。餌代に毎日 100～200 万円も掛かっている。結論急いで出すべき。家畜を飼っている人にとっては辛い話。

福山副長官：20～30 キロでも場所によって全然数値が違う。家畜がいる場所は、どこの地域の何町のどの地区かによっても日によっても全然違う。農水省か保安院にデータがあると思うが、場所を特定して、そのときの積み上がった量とか汚染や土壌状況を確認した上で、移動が無理だということならば殺処分せざるを得ない。殺処分するにも誰が殺処分するのか。

平野内閣副大臣：スクリーニングする必要があるのかどうか問題。

筒井農水副大臣：そのレベルかどうかの問題。

福山副長官：一般的につらい話だが、場所をとにかく 1 回確認して欲しい。一般的にではなく、実際に調べて「違います」と。

筒井農水副大臣：市町村ごとに判断できるのかもしれませんが、その判断もこっちはできない。

福山副長官：それは原対本部で検討させてください。

筒井農水副大臣：移動も殺処分も大変。これも原対本部に判断して欲しい。

**【今後の見通し】**

平岡総務副大臣：今のような状態が最低どのくらい続くのか。最高といたら何年もかもしれないけど。これから、どのようなことが悪い方向として起こりうるか。その場合には被災者対策についてどういうふうに影響を与えるのか。もっと避難指示の対象は広がるのか。

平岡次長：見通しを立てられる状況ではない。

平岡総務副大臣：誰かがテレビで数ヶ月と言っていたが。その人は何を根拠にそういうことを言っているのか。

海江田大臣：私たちは、原発で今起きていること、それから何をやらないといけないかというのを全部書き出して、まず検討している状況。

東電でもやらなければいけないことをまとめているところ。

炉が安定的に冷えるのが目標だが、今の段階でいつということとは言えない段階。炉心、使用済燃料が自動で冷えるシステムが完成しないといけない。そこに至る過程で、注水したが、結果的に水が溢れてしまった。そうした予期しない対応に追われている状況。従来の原子炉の安全確保を維持していかないとならない。

今まさにいろんなところで詰めている段階。

4/11で1ヶ月が立つので、それに向けてある程度政府側でも見通しを付けられぬか検討している状況。

福山副長官：海江田大臣に必死になって検討してもらっている状況であり、その中で最善の方法を選択していくしかない。

平岡総務副大臣：被災者の立場に立つとできるだけ早期に対応すべき。

松下副大臣：避難民の人たちの話を聞くと雰囲気、環境がよい状況ではない。精神の安定という意味で、1ヶ月に立って、また見通しのないまま、その状態がまだ続くとは放置できない状況になると思う。

**【農水産物の補償】**

笹木文科副大臣：東電の仮払いは海産物は対象になっているか。

筒井農水副大臣：水産物は今まで出ていなかったが、出てくればやらざるを得ない。

海江田大臣：当面は生活支援、被害が分かってきた段階でその価格を中に入れてもらえばよいという考え方。

筒井農水副大臣：農産物の損害がすでに発生しているので、最終的にいくらになるかわからないが、現在見えている部分について仮払いし、後で精算する。

平野内閣副大臣：水産について風評被害が出ているか。

筒井農水副大臣：これまで17カ所で調査したが全部シロだった。

平野内閣副大臣：補償はいろいろな問題があり、整理の段階。農協が自主的に仮払いするのはよいか。

筒井農水副大臣：農協が自主的に農家をまとめて仮払いしている。民間同士の話である。

平野内閣副大臣：様々な影響が出てくる政治的判断が部分的に必要となるかもしれない。

筒井農水副大臣：政府が仮払いするかというのは政治的判断だが、民間がやることを阻止する訳にはいかない。

平野内閣副大臣：別途情報交換したい。

#### 【ロードマップ】

大塚厚労副大臣：原発の見通し立たないか。20、30km から周辺避難された方に対し、生活資金はいつ頃出るのか、仮設住宅にはいつ頃入れるのか。先のスケジュールが分かるようにロードマップを示す必要。多少幅のあるものでもよいので示すべき。

保安院の説明はニュースで聞いてれば分かる話。本会合は何か物事を決めていく、被災者支援に係る懸案をこの場で決するという場とすべき。何か工夫をした方が今後のためにはよい。

近藤環境副大臣：放射性廃棄物が出てくると思うが、連携して対応していきたい。

平岡総務副大臣：ある程度のスケジュール示せないか。

海江田大臣：そこまでは今の段階では難しい。

平岡総務副大臣：復旧復興のための基本法を作ろうという動きがあるが、福島原発の話は触れられていない。仮に放射性物質が封じ込められても、その後どういう汚染があるか状況を調べ、どういう作業をしていかないかならないか。スケジュールを考えると最低1年間帰れない。1年帰れないという前提とした生活支援をしていかないとならない。そういう意味でロードマップ、いつになったら帰れるか、最低いつまでは帰れないのかということを示していかないと、避難している人の欲求不満は貯まる一方。

三井国交副大臣：数ヶ月程度かかる等見通しにかかることを軽々に発信することはいかかなものか。甘い考えで対応してはいけない。メッセージは必要だが、出すときはしっかりと統一的に対応すべきもの。

海江田大臣：11日に示すということではない。総括しなければということで、まだ動いている段階なので固まったものは出ない。ロードマップが必要だということは地元からも要望を受けている。

平岡総務副大臣：順調でもこれだけというメッセージでもよい。順調にいても1年くらいは掛かるのではないか。

小川防衛副大臣：他の被災地が仮設住宅や道路再開の復興に向かっている中で、苛立ちと不安がどんどん募っている地域だと思っている。平岡次長から現地、役場の声の報告があった。相互交流が重要だと思っており、政府の方針を伝えるとともに、地域の思いや情報を政府の会議体で共有。連携の絆が重要。

#### 【その他】

平野内閣副大臣：会議の持ち方を検討しないとならない。こういう大きな場でやるべきか。後で相談したい。

片桐警察庁次長：被災地で犯罪が増えている。防犯対策は人員を増強し870名体制で対応。立ち入りについて、必要があればバスを出す用意がある。

大塚厚労副大臣：地元のいわき、釜石に戻った際、被災地を見に行く車による渋滞に遭った。そういう車両規制をした方がよいのではないか。

以上